



▲福良港内の37基の水門や陸閘、樋門は手動での操作もできるほか、津波警報が出た際、自動閉鎖できるよう整備が進められます

ステーション内部



中央制御室

▲ステーション屋上の360度回転できるカメラを操作できるほか、自動閉鎖が可能な水門等にあるカメラの映像も確認できます

防災学習室

津波の怖さを知ってもらい、被害にあわないことを学んでもらうための部屋です。子どもやお年寄りにも分かりやすいよう、映像や体験装置で津波の仕組みから安全な逃げ方まで学習できます。



プロローグシアター

津波体験装置

(左)約5分のアニメ映像で津波の怖さを感じてもらうシアターです
(右)50cmの水の流れの強さを足を使って体験できます

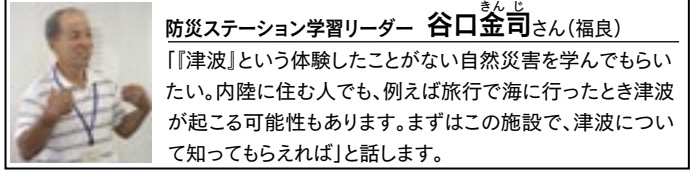


津波って何？
どうして起こるの？

津波から逃げて！
シミュレーションゲーム

(左)津波の発生からその破壊力まで、6つの映像で学習できます
(右)津波の避難で遭遇する様々な問題をゲームの中で体験します

※普段からの津波の備えや津波が起こった際、どうしたらいいのかを学べるコーナーもあります



防災ステーション学習リーダー 谷口金司さん(福良)

「『津波』という体験したことがない自然災害を学んでもらいたい。内陸に住む人でも、例えば旅行で海に行ったとき津波が起こる可能性もあります。まずはこの施設で、津波について知ってもらえれば」と話します。

津波

備える
伝える
逃げる
学ぶ

- ① 福良港の水門等を自動的に閉め、津波の浸入を防ぎます。
- ② 津波警報が発表されたときなど、速やかにスピーカーで放送します。また市や県の関係部署に湾内の映像を流します。
- ③ 港周辺にいる人の緊急避難場所になります。
- ④ 防災学習室で津波の学習できるスペースがあります。

外壁の赤錆は錆びにくい鉄「コルテン鋼」
錆をもって錆を制す

津波対策の拠点施設が完成 福良港津波防災ステーション



▲完成式では井戸敏三知事や中田勝久市長ら関係者がテープカットをし、完成を祝いました

信する津波警報等を同ステーションが通信衛星を用いて受信すると、これまで手動で行われていた水門や陸閘、樋門は、すぐに自動で閉鎖します。また、それに連動し、住民向けにも津波情報等がスピーカーで発信されます。

現在は全37基の水門等のうち、自動閉鎖が可能なものは3基ですが、今後全ての水門等で遠隔操作ができるよう整備が進められます。

外壁の特徴的な赤錆、これは「コルテン鋼」と呼ばれる屋外での劣化が起こりにくい特殊な鉄です。時間が経つと徐々に黒みを帯び、鉄をぼろぼろにする新たな赤錆の発生を防ぐ効果があります。潮風を直接受ける同ステーションは、錆をもって錆を制するという方法で施設の劣化対策をしています。

地震発生から第1波到来まで約40分、その後沖合いで発生した津波は、最大5.3mの高さで福良湾内に到達すると予想されています。気象庁が発

東南海・南海地震で深刻な津波被害が想定される福良地区では9月11日、福良港周辺の水門等を遠隔操作で自動開閉できる施設「福良港津波防災ステーション」が完成しました。総工費約2億6000万円の同ステーションは、兵庫県が建設し、今後は市とともに運用を行っていきます。

なないろ館西側にある同ステーションは、地上10mの屋上を緑化して住民や観光客の緊急避難場所とし、2階には制御室や防災学習室があります。制御室では、広域監視カメラで港内の映像を県や市の関係部署にも配信し、津波対策の基地として利用されます。また、防災学習室は津波を「感じる」「知る」「逃げる」「備える」を学ぶ施設となっており、地域の自主防災組織の研修や小学校の課外学習での利用も想定されています。(休み日、月曜日が祝日のときはその翌日が休み。受付10:00～16:00、☎50・2381)

東南海・南海地震で深刻な津波被害が想定される福良地区では9月11日、福良港周辺の水門等を遠隔操作で自動開閉できる施設「福良港津波防災ステーション」が完成しました。総工費約2億6000万円の同ステーションは、兵庫県が建設し、今後は市とともに運用を行っていきます。

なないろ館西側にある同ステーションは、地上10mの屋上を緑化して住民や観光客の緊急避難場所とし、2階には制御室や防災学習室があります。制御室では、広域監視カメラで港内の映像を県や市の関係部署にも配信し、津波対策の基地として利用されます。また、防災学習室は津波を「感じる」「知る」「逃げる」「備える」を学ぶ施設となっており、地域の自主防災組織の研修や小学校の課外学習での利用も想定されています。(休み日、月曜日が祝日のときはその翌日が休み。受付10:00～16:00、☎50・2381)

東南海・南海地震で深刻な津波被害が想定される福良地区では9月11日、福良港周辺の水門等を遠隔操作で自動開閉できる施設「福良港津波防災ステーション」が完成しました。総工費約2億6000万円の同ステーションは、兵庫県が建設し、今後は市とともに運用を行っていきます。

なないろ館西側にある同ステーションは、地上10mの屋上を緑化して住民や観光客の緊急避難場所とし、2階には制御室や防災学習室があります。制御室では、広域監視カメラで港内の映像を県や市の関係部署にも配信し、津波対策の基地として利用されます。また、防災学習室は津波を「感じる」「知る」「逃げる」「備える」を学ぶ施設となっており、地域の自主防災組織の研修や小学校の課外学習での利用も想定されています。(休み日、月曜日が祝日のときはその翌日が休み。受付10:00～16:00、☎50・2381)